

お知らせ

記者発表資料
配布日時

平成29年1月5日
14:00

■同時発表先：島根県政記者会、出雲市政記者クラブ、米子市政記者クラブ、
出雲ケーブルビジョン

大型水鳥類の定着と安定的な生息環境確保に向けて、 整備内容を確認します。

～「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる
流域づくり検討協議会 生息環境づくり部会」の開催について～

中海・宍道湖圏域はラムサール条約登録湿地に代表される豊かな自然環境を有している地域です。さらに、わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類5種（①ハクチョウ類②ガン類③ツル類④コウノトリ⑤トキ）、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ国内唯一の地域です。

中海・宍道湖圏域ではこれらの特色を活かし、経済界、観光、農業、漁業、行政などの多様な機関と連携・協働し、生態系ネットワーク^{*1}の形成による大型水鳥類と共に生きる魅力的な地域づくりを目指し、「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」による取り組み^{*2}を進めています。

この度、同協議会の専門部会である「生息環境づくり部会」の第3回目となる会合を以下のとおり開催します。

会合では、大型水鳥類の生息環境確保に向けて、出雲地域の具体的な整備内容、中海・宍道湖の拠点となる箇所選定について確認します。

【生息環境づくり部会】

- ◆日時：平成29年1月12日（木）10:00～12:00
- ◆場所：国土交通省出雲河川事務所 1F 大会議室
- ◆内容：別紙1「議事次第（案）」参照

※1 生態系ネットワークとは…

自然を確保しつつ豊かな自然をつくっていく方法。貴重な自然を保全すると共に、細切れになった自然をつなぎ、生きものの移動経路を確保したり、自然の働きを回復させることによって、豊かな自然を再現しようとする取り組み。

生きものの視点に立ち、土地利用のあり方を考える生態系ネットワークは、生きものを守るための戦略的な方法であると共に、人間が持続的に豊かな生活を送るためのランドデザインの基本となる。

※2 取り組みの概要については別紙2参考資料参照

過去の協議会資料等詳細は出雲河川事務所webサイトに掲載

(<http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/iinkai/ryuiki/index.html>)

<問い合わせ先>

■国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所

副所長（技）

にしお まさひろ
西尾 正博

【担当】計画課長

やまもと ひろゆき
山本 浩之

0853-20-1761（直通）

斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
第3回 生息環境づくり部会

議 事 次 第

日 時：平成 29 年 1 月 12 日（木）

10:00～12:00

場 所：出雲河川事務所 会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議事

- (1) 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会 規約の変更について
- (2) 指標大型水鳥類に関する最近の動向について（報告）
- (3) 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」における保全・整備の考え方（案）について
 - 西部エリア：斐伊川-神戸川境橋上流～神戸堰
 - 西部エリア：斐伊川 4.5k～8k 付近（西代橋周辺左岸）
 - 西部エリア：斐伊川 9k～10.5k 付近（斐伊川河川敷公園下流）
 - 西部エリア：斐伊川左岸出島地先
- (4) 「生態系ネットワーク保全・整備拠点事業地区」候補地について
 - 東部エリア：彦名浚渫土処理地（米子市）
 - 東部エリア：飯梨川河口～赤江大橋（安来市）
 - 東部エリア：米子水鳥公園
- (5) 堤内地水田地区における取り組みについて（経過報告）
- (6) 指標大型水鳥類の生息地の保全・整備に関する
今後の進め方（案）について

4. その他

5. 閉会

- 斐伊川水系は、宍道湖及び中海のラムサール条約登録湿地に象徴される、多くの大型水鳥類が集まる国際的評価の得られた豊かな水辺環境を有している。
- わが国の陸水域に生息する希少な大型水鳥類は、①ハクチョウ類 ②ガン類 ③ツル類 ④コウノトリ ⑤トキの5つに大別されるが、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性を持つ地域は、斐伊川水系が国内唯一である。
- これら大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指している。

人口減少しながらも、
大都市圏との対流をおこすための
「内燃機関」の構築・確保

おとずれてみたい、
住んでみたい、
持続可能なまちづくり



過去に失われた自然環境の保全・再生と、
その持続可能な利用

自然環境を活用した土地利用・
社会資本整備(グリーンインフラ)の推進



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長



斐伊川に飛来したハクチョウ、ガン
佐藤仁志(公財)日本野鳥の会理事長

5つの大型水鳥類が生息できる日本で唯一の地域「斐伊川水系」

日本に生息する
希少な大型の水鳥類は、
主に5つにわけられます。

- ① ハクチョウ類
- ② ガン類
- ③ ツル類
- ④ コウノトリ
- ⑤ トキ

斐伊川水系 <ひいかわすいけい> には・・・

- ① ハクチョウ類 ② ガン類 ③ ツル類 …毎年冬に飛来します。
- ④ コウノトリ …飛来もたびたび目撃されています。
- ⑤ トキ …かつて生息していました。

➡ 斐伊川水系には日本で唯一、これら5つの大型水鳥類が安定的に生息するポテンシャルがあります。これらの大型水鳥類がくらするように、環境づくりを進めていきます。

国際的に重要な湿地である宍道湖・中海を中核として、
大型水鳥類を指標とした自然環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した
生態系ネットワークの形成を目指します

大型鳥類を 指標とする メリット

1 自然と調和した多様な環境が 一体的に存在することの象徴

大型水鳥類の多くは、まとまった良好な水辺を広範囲に移動して生息・繁殖・越冬する習性をもつことから、行政界の枠を越えた広域レベルの水系ネットワークの指標として適した存在です。



2 色々な生きものがくらす 環境の象徴

大型のガン類やハクチョウ類、ツル類が生息できる河川・湖沼やまとまりのある湿田や湿地は、小型の水鳥類をはじめ多くの生きものがくらすにける環境条件を有しています。



3 アピール性が高く、 広く受け入れやすい

ハクチョウ類やコウノトリなどの白い鳥、ガン類など群れで行動する鳥は目にとまりやすく、取組の効果をアピールするのに適しています。



斐伊川水系 生態系ネットワーク 検討体制

中海・宍道湖・大山圏域の経済、観光、農業、漁業、行政、専門家などの多様な主体が集まり、人と大型水鳥類が共生する魅力的な地域づくりにむけた取組を始めています。

生態系ネットワーク形成にむけて

斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

中海・宍道湖・大山圏域の
関係者が集まって 話し合う場

人と大型水鳥類がともに暮らす地域づくりの実現と、地域の魅力を引き出すための取組を行います。



大型水鳥類がくらしやすいよう、河川・農地などの環境の改善方法をみんなで考えます。

生息環境づくり部会



大型水鳥類が舞う地域の魅力を、農業・観光などの観点からみんなで考えます。

地域づくり部会

事務局：国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所



●農産物のブランド化



●冬季の観光資源



大型水鳥類の
魅力を
活かす例

●お土産の開発 コウノトリをモチーフにしたお土産など



大型水鳥類がくらしやすい流域づくりの推進